



優秀賞



2019年台風で漂着した河川ごみ



荒川河口に生息するトビハゼ

河川・ダム・
砂防・海岸
分野

荒川クリーンエイド～治水インフラ「荒川放水路」を支える市民参加型メンテナンス～

取組概要

荒川放水路は、明治43（1910）年の洪水被害を契機に建設された首都圏最大級の治水インフラであり、都市型水害から地域を守る要として重要な役割を果たしている。しかし都市化に伴い、当該流域には人工系ごみの漂着が深刻化しており、放水路の機能維持のためには行政のみならず市民の関与が不可欠である。荒川クリーンエイドは1994年より市民・企業・学校・行政が連携し、放水路の清掃と生物多様性保全を継続的に実施している。協働型のメンテナンスを通じ、治水機能と自然環境保全・創出の両立を目指している。

受賞理由

産官学民が連携した継続的な取組が確立されており、清掃活動にとどまらず、河川ごみ問題をテーマにしたアプリ開発など、荒川放水路の維持管理に関しても広く関心を持ってもらうための様々な工夫がみられ、担い手の循環が機能していることが評価された。

取組のポイント

本活動は、単なる清掃ではなく「データに基づく環境管理」「市民科学」「多主体連携」「教育・啓発」を組み合わせた先進的な取り組みである。特に下流域では荒川下流部ゴミ対策協議会を通じた行政/自治体協働が強固である。さらに、回収したごみを種類別に記録し、その傾向を分析することで、行政への政策提言にもつなげている。また、外来種除去や良好な泥干潟の保全を同時に実施し、生態系インフラとしての放水路の質を高めている。市民がインフラの現場を知り、守る当事者になる仕組みを築いている点が他にない優位性である。

受賞者について



受賞者

特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム
荒川、河川/海洋ごみ問題、生物多様性などについて、
YouTube”荒川ブラックスーツ団ちゃんねる”で
発信中。

コメント

荒川クリーンエイドは、川と人を結ぶ架け橋です。本賞の受賞は、未来の川や海を守る歩みが社会の礎となることを示す確かな証であり、これからの挑戦を進める大きな原動力となります。川をきれいにすることは、人の心を澄ませ、街の誇りを育むこと。その一歩が未来を形づくります。インフラを支えるのは技術だけではなく、地域に根ざした想いと行動です。荒川クリーンエイドは今後も活動参加者および国土交通省荒川下流河川事務所、そして治川自治体と強固に連携しながら、川を、街を、海を、そしてその未来を支え続けます。

団体概要

荒川クリーンエイド・フォーラムは国土交通省荒川下流河川事務所および荒川治川自治体と協働し、荒川の河川ごみ問題の解決を軸とした取組を30年間継続してきました。年間約1万人の参加者が荒川放水路というインフラの現場を知る活動のハブとなっています。

問い合わせ先

特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム
renraku@cleanaid.jp